

◆第1回議会改革諮問会議の協議内容◆

平成30年10月19日（月曜）19:00-21:00

役場3階議長応接室

太田・川合・小山・馬場・牛嶋委員出席

議長・議運委員長・局長・次長

平成29年度、芽室町議会改革諮問会議設置条例に基づき委嘱した5人の諮問委員が、引き続き平成30年度も、諮問事項の協議にあたった。



平成30年10月19日に開催された第1回会議では、今年度の協議事項である「住民から見える「議会活動の評価」とは」について事務局長から資料説明を行った後、議論に入った。

■協議概要

（資料説明を受けて、疑問点の確認等、自由な議論を行った）

- 評価自体は、やって当たり前のことなのではないかを感じる。（外部評価が）全国的にも事例が少ないということは驚き。
- （議会が自己評価を行っていることは）町民には伝わってきていないと思う。
- 議員個々に対する町民評価を行うと、緊張感を持ってできる。
- 議員の評価目線と町民の目線のギャップがあるかどうかということ。議員の政治倫理という項目があるが、この点は町民から見た目が、より反映しやすいのではないか。
- 町民は、結局「何をしてくれたか」「どういう政策ができたか」ということに興味があると思う。政策と結びついてないと何も評価できない。
→ 条例の実施評価は、町民は望んでないということになる。
→ 町民が、関心があるかないかは別として、条例の評価自体も、常に見直すという視点は大事。
- 議会モニターによる評価はありなのかもしれない。
- いかに取り組みを理解してもらうか、もっとPRが必要なのかいろんなことが考えられるが、評価しないと次にやるべきことも見つからない。
- 議会の活動って、アウトカムが分かりづらい。
- 傍聴に来たり、普段議会と関わりを持っている人は、ある程度分かるのかもしれないが、やっていることが理解されているか、という評価もあるかも。
- 逆に成果が現れなくても、議論を尽くしてきたのか、という評価もある。

■ 議論のまとめ

対象・視点

「議会のアウトカム」
は何か？分かりづらい

やっていることが理解
されているか

成果だけでなく議論を
尽くしたか、が評価

手段・手法

目線のギャップ

議員個々に対する町民
評価はアリ？

条例評価を望んでるか

議員の「政治倫理」評
価は町民目線が良い

町民の興味は「何をし
たか」「政策」では？

モニターによる評価は
アリかも

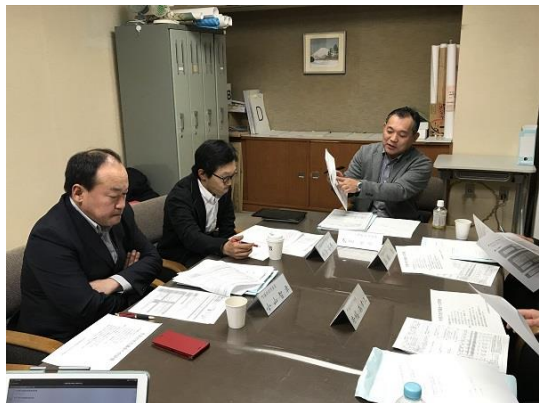
町民の評価と学識経験
者の評価を区分

目的

評価があって次にやる
べきことが見つかる

◆第2回議会改革諮問会議の協議内容◆

平成30年11月30日（金曜）19:00-21:15
役場3階議長応接室
太田・川合・小山・馬場・牛嶋委員出席
議長・議運委員長・局長・次長



前回の他事例整理などから、「評価のあり方」について多様な考えを出し合い協議を進める。

■評価者について

- 評価は、やはり住民目線。
- 多様な人の話を聞くこと。
- 選択肢を選ぶようなやり方だとやりやすい。
- 議会としても、総計審のようなものがあるといいのかも。
- 議会に対して「評議委員会」的な審議会があっても良い。
→議会モニターはあるが、さらに進んだ形として、議会の取り組みに対して評価をする審議会方式もあり得るかもしれない。
- 次のステップとしては、カテゴリ化して、特定の対象者をターゲットにした問い方もある。
- 市民の評価に対して、裏付け、分析として、学識経験者による評価も必要。
- 学識経験者は評価の内容を検証すべき。

■評価の手法について

(アンケート手法)

- 議会からの投げかけに対してどれだけ市民の反応があったか、ということも大事な評価ポイント。
- 見ているか、見てないかという単純な点だが、経過を見ていくことが大事。
- 細かい設問は不要かも。
- 「やっていることが理解されているか」という問いに1から5段階で評価すること

ともあり。

→行っていることを先に噛み砕いて説明があると答えやすい。

- 実績に対して町民が自分がどう思っているか、という視点で評価したら良い。
- 町民は、「他の議会と比較してどうなのかな」というのは分からないもの。
- 町の町民アンケートに議会の項目を載せる。
→町民の意向結果を、第三者に評価してもらうようなことにもつながる。
- 自由表記の評価は難しいかも。
- 5段階評価なども、分かる人は極端な答えも出せるが分からない人は中心値に寄りがちになる。
- 興味のある項目だけでも書いてもらうということも評価の一つ。
→総計審も、話題になるのは「意見欄」。

(アンケート手法以外)

- ホットボイスで、項目を絞って、毎月、1つか2つの項目を書いておいて、その事項に興味がある人は答えてくれるかもしれない。
→議会だけに届くようなはがきをつけるのもやり方。
- 評価シートを作って、それに対して「どう思いますか」という問いかけ。
- 政策じゃないことは、評価しにくい。
- 議会がやっていることを簡単に整理して、町民に示せるような資料をもとに回答。
- 町も交えて活動するようなことがあると、また違った見方ができる。
- もっとフラットでオープンな意見交換ができるような仕組みがあれば良い。
- (意見を言う住民に対して) 行政はあまり考えずに回答していることが多く、その人の背景にある本当の課題に思いを巡らせない。住民からの声なき声を吸い上げたいということなら、町も議会も一緒にやるのが良い。

■議会に関心を持ってもらうために

- 「議会に興味がない」という答え、評価があったとしても、それも町民の評価結果である。
- まったく興味がない住民も多くいることも確かかも。
- (議会だよりを) そもそも見ない人もいる。関心がなければ、情報として入ってこない。
- 年代や職業によって関心事は異なってくる。
- 町民は自分の生活に関係あるものには関心が高い。
- 自分たちでまちづくりをしようという住民の動きが全国である。そういった事例を参考にするという視点は大事。アンケートなどの手法に限られたエリアだけのものであるで、それを広げられないか。
- (町外から) 芽室町をどう思っているか思いを議会が聞く機会がない。

■議論のまとめ

年代や職業によって関心事は異なってくる

そもそも見ない人もいる。関心がなければ、情報として入ってこない

まったく興味がない住民も多くいる

住民は自分の生活に関係あるものには関心が高い

〔議会の思い〕

議会の機能強化などは、町民の皆さんのためになっているのかどうか

議会がやっていることを、簡単に整理して、町民に示せるような資料をもとに答える

町民全体に対する問いかけ

アンケート方式

視点

議会からの投げかけに対してどれだけ町民の反応があったかということも大事な評価ポイント

細かい設問は不要

(議会が)やっていることが理解されているか

手段

選択肢を選ぶようなやり方だとやりやすい

自由表記の評価は難しいかも

5段階評価なども分からない人は中心値に寄りがちに

興味のある項目だけでも書いてもらうということも

町の町民アンケートに議会の項目を載せる

ホットボイス

毎月1つか2つの項目を書いておいて、その事項に興味がある人が答える

議会だけに届くようなはがきをつけるのもあり

特定の対象者に対する問いかけ（全町民ではない）

「評議委員会」的な審議会があっても良い

総計審のマネージメントシートのように施策が分かっていると評価しやすい

学識経験者の活用

学識経験者は評価の内容を検証すべき

評価の活用

町との連携

議会と町が一緒にやることで（町民アンケートの）結果を第三者に評価してもらうようなことにもつながる

町も交えて活動するようなことがあると、また違った見方ができる

住民からの声なき声を吸い上げたいということなら、町も議会も一緒にやるのが良い

その他の取組み

町民以外へのアプローチ

周囲（に住む人など）から芽室町をどう思っているか思いを議会が聞く機会がない

自分たちでまちづくりをしようという住民の動きの事例を参考にするという視点は大事
アンケートなどの手法が限られたエリアだけのものであるで、それを広げられないか

フラットでオープンな意見交換ができるような仕組み

◆第3回議会改革諮問会議の協議内容◆

平成 31 年 1 月 18 日（金曜） 19:00-21:20

役場 3 階議長応接室

太田・川合・馬場・牛嶋委員出席

議長・議運委員長・局長・次長



1・2回目までの協議を踏まえて、評価のあり方について議論を煮詰めていく。

■ アンケート方式による評価について

- 関心という視点と理解をしているという度合いを測るという点は、項目として入れたら良い。
- 議会が何を話して何を決めてきたか、という項目を知らない人は評価しづらい。
評価するための材料がないと評価できない。

■ アンケート方式以外による評価について

- 議員が自己評価したそれぞれの「理由」を項目として並べて、その議員評価結果を町民に評価してもらうのはどうか。
→もう少し、設問のあり方を分かりやすく工夫して、町民にも分かりやすい形にして、自己評価と町民評価を行えばよいのでは。（議員と町民との視点で同じ項目を評価できるのであるから、結果は分かりやすい）
- 自己評価の理由（活動内容）を書いた上で評価してもらったらよい。

■ 評価の視点について

- 議会で行っていることをどう理解するか…難しい。議員の活動内容が分かるということだと、マニフェストなどがあれば、それに対する、結果…は？
→議会としての評価と議員個人の評価とは別ではないか。

- 議員の評価を議会の評価に繋げるようなことがあると良い。
- 議会の目標と、議員個人の目標とは異なる。
- (資料の案にある)「議会活動に関すること」の中で、議会や議員に「期待すること」とあるが、期待なのか…。求めること？望むことなのか？町民生活に役立っているか？というところもあるのでは。
- 「町民生活に役立っているか」という点については、判断基準は町民目線になっているかどうかの確認作業ではないか。

- 役割ってことが理解されているかどうかということかも。
- 「開かれた議会」というが、本当にそういった目線になっているかどうか。情報公開の仕方など。それは「期待」ではなく「反応」に近いものかも。
- 施策に対してどうアプローチしていたかというところが大事。

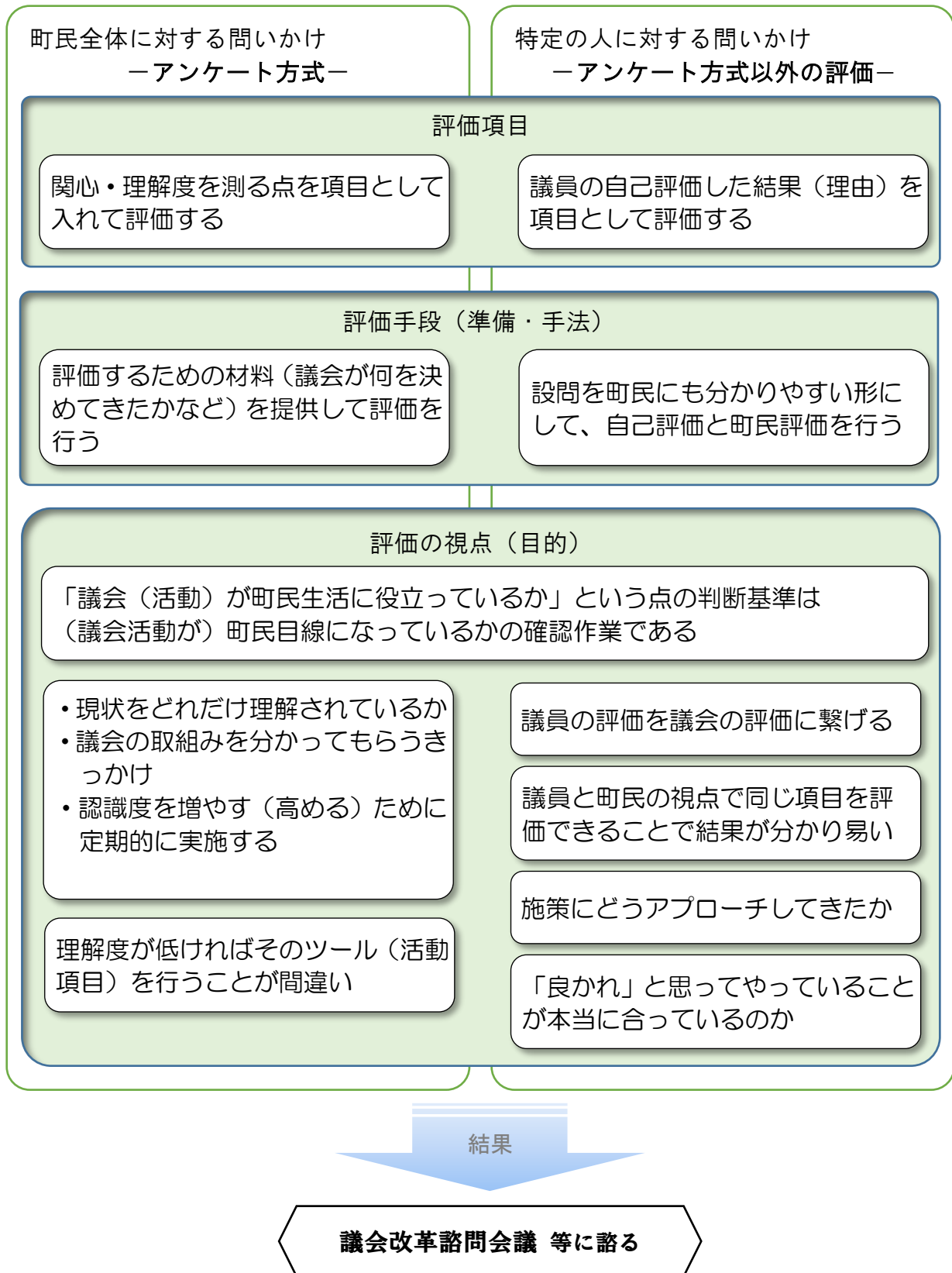
- 評価というよりも現状をどれだけ理解されているのか、ということ聞き取るためにアンケートを取るとのこと。(議長)
- やっていることそのものではなく、良かれと思ってやっていることが、本当に合っているのか、という点を評価してほしい。(議運委員長)

- 理解度が低ければそのツールを使うことが間違っている、という評価になる。
- 同じ項目でも認識度合いを増やしていく目論見として、定期的にやり続けることも必要。
→今は、理解を得るために、どういったことを活動しているのか分かってもらえればよい、というステップなのかも。
- アンケートによって知ってもらうきっかけにはなるのかも。
- 議会の取組みを分かってもらうきっかけとしてのアンケートなのかも。

■情報公開・提供全般について

- 防災無線で議会のj開催などの情報を放送できないものか。
- 「何々をやっている」というような案件名を、どうやって目に触れるようにしていくか。HP上で議件名が表示されていても、このままでは内容が分かりにくい。
- 議会だよりも、自分から見ると堅いイメージ。
- HPも自分の興味関心があるキーワードで、議案や資料を簡単に見られるような仕組みになっていると良い。

■議論のまとめ



◆第4回議会改革諮問会議の協議内容◆

平成31年3月1日（金曜）19:00-21:15

役場3階議長応接室

太田・川合・小山・馬場・牛嶋委員出席

議長・議運委員長・局長

第1～3回までの議論のポイントをまとめて、評価案の整理を行っていく。

ある程度固めることができるのではない
か。固まれば答申をしたい



■資料の確認から

- ・特定、というのはどういったことをイメージしているのか。→例として議会モニター等
- ・定性調査の意味は。→深堀するような聞き取りや、詳しい説明がある資料などをもとにした調査。
- ・議員の自己評価はどのようなものなのか。→議会基本条例の条文に対して、やっているか、できたかなどの評価。

■定性調査（特定者に対する調査）について

- ・議員の評価結果を町民が評価できるのかどうか。
- ・議員の評価結果がAとかBとかと同じで、町民もAとかBとか評価が分かれるものだし。議員の評価が良いとか悪いとかいう評価ではない
- ・資料にあるような「議員の自己評価の結果」を評価ではなく、**同じ「対象」を町民目線で評価するということ**ではないか。

■評価の仕方・設問について

- ・**評価項目に対して「理解した」「理解していない」というところが重要**。
- ・**設問によって、選択肢の趣旨を変える**ことがあっても良いのでは。これは「理解」これは「妥当」など。
- ・**設問によって、グループ分けするような考え方も**あってよい。
- ・**評価理由を書く**ようなことがあればよい。

○**定量調査は**、分かりやすい項目を要約して、設問を設定する。**特定の町民に対しては**、内容を深くして行うようなことになる。無作為抽出のアンケートでも、内容面では同様のものがあってよい。

■定性調査（特定の町民）の対象について

- 資料をただ見ても分かりづらいだろうから、集まって説明を受けながら回答するのが良いと思うが、時間がかかるし、段階を踏まなければならない。
- 各種意見交換会を行っている中で、評価（意見をもらう）するようなことは？
→意見交換をしても情報の差は依然としてある中で、そこで評価してくださいと言っても、何を評価してほしいのか、となる懸念がある。
- 諮問委員もモニターも、理解はされやすいと思う。過去の経験者にも含めて評価者になってもらう考え方もある。
- モニターのOB・OGがこうした評価に関わることで継続した目線を維持できるという側面もある。モニターの次のステップとして評価者があるのは良い。当事者意識を持つ方を増やすという面でも良い。
- 議会をある程度分かっている人たちであれば、当事者だけでも評価は可能ではないか。議員が同席しなくても事務局が説明して評価するような。
- ベースをモニター会議にして、増やすのはやり方があるのでは。
- モニターのハードルが上がるのが懸念。
- モニターが終わってから、評価に関わるように協力を願うような流れを作る考え方もある。
- モニターOB・OGが評価に関わるということは、議会に関心を持つ町民層を増やすことになるので、そういった項目を1つ加えたい。

- 議会に関わった経験を持つ方を評価者としたときに、今の時点ではモニター経験者や諮問会議委員などになる。

→これからの議論から、答申案文面を作成し、了承。21時05分 会議終了。
21時15分 大田会長から広瀬議長に答申書を手交する。

